

授業者と学生の相互行為がもたらす教育効果Ⅲ

— 授業通信質問紙の作成 —

藤田 哲也 ・ 北神 慎司
(法政大学 文学部) (島根大学 法文学部)

大学の講義科目においても、授業通信などのコミュニケーションツールによって授業者と学生との間に相互行為をもたらしることが可能である。授業通信とは、毎回の授業の終了時に、その授業についての質問や感想を学生に記入してもらい、それに対する教員の回答を、学級通信のようなプリントにして翌週の授業で配付するものであり、全体的に、学生からは肯定的に受け止められることが多い (e.g., 藤田・溝上, 2001)。ただしこれまでは、学生の属性によって、授業通信の受け止め方に違いがあるかどうかまでは検討されてこなかった。そこで本研究では、心理学の専門科目でありながらも他専攻の学生の受講も可能になっている授業を対象に、詳細な検討を加える。

〔方法〕

・ **受講生** 2004 年度後期に人間の記憶についての同内容の講義を受講していた、①私立 H 大学文学部 1 部心理学科 2 年生、②同 2 部 3,4 年生、③国立 T 大学 3,4 年生及び M1 の人の中で、成績のフィードバックを行った回 (実質的な最終回) に出席していた者 116 名。各クラスにおける、心理学専攻・非専攻の内訳は、Table 1 のとおり。①と②は同じ曜日の連続した 2 コマでの開講だったため、授業通信は共通化した。③は、①②とほぼ同内容の授業を行ったが、当然の事ながら、授業通信の内容は異なっていた (一部は重複)。

Table 1 各授業における受講生の内訳

	心理学		合計
	非専攻	専攻	
H大 1 部	0	26	26
H大 2 部	30	18	48
T大	29	13	42
合計	59	57	116

・ **調査時期** 2004 年度後期授業の実質的な最終回。H 大では 2005 年 1 月 11 日、T 大においては 2005 年 1 月 25 日。

・ **授業通信質問紙** A4 判の用紙に、23 項目の質問文 (cf. 藤田・溝上, 2001; Table 2) を印刷して配布した。授業評価のための計 11 項目 (e.g., 藤田, 2005) とともに、マークシート用紙にマーク

することで回答。記名式。各質問項目に対し自身自身に当てはまる程度を 6 ~ 1 の 6 段階で評定 (数字が大きいほど当てはまるを意味する)。

・ **手続き** まず、授業評価に関する質問に回答してもらい、その後に、授業自体とは切り離して考えるように教示を与えた上で、授業通信についての回答を求めた。

〔結果〕

授業通信質問紙について因子分析を行った結果、「好意・接近」「理解補足・深化」「情報受信」「コミュニケーション・意欲」の 4 因子を抽出した (5 項目を削除; Table 2)。また、各尺度の評定値平均 (得点範囲は 1-6; 意味的な中央値は 3.5) を見る限り、「コミュニケーション・意欲」を除き、授業通信は概ね肯定的に受け止められていたといえよう。

Table 2 授業通信質問紙 (各文冒頭は「授業通信…」)

＜好意・接近＞平均=4.91 (SD=0.92), $\alpha = .87$

…に載っている、授業とは直接関係ない内容が楽しみだった。
…によって授業担当教員に興味・関心が持てるようになった。
…は、これからも続けるべきだと思う。
…が好きだった。

＜理解補足・深化＞平均=4.28 (SD=0.80), $\alpha = .73$

…によって授業内容について自分の考えを深められた。
…によって授業中の分からなかった点が補足された。
…によって、前の回の授業内容が復習できた。
…がなかったら、この授業の成績は、もっと悪かっただろう。

＜情報受信＞平均=5.28 (SD=0.59), $\alpha = .80$

…によって、授業担当の先生のやる気が伝わった。
…の内容は分かりやすかった。
…によって、試験・レポート情報や休講情報などの連絡事項が確認できた。
…によって、授業担当の先生の考えが自分に伝わった。
…はおもしろかった。
…によって、他の受講生の考えや感じ方を知ることができた。

＜コミュニケーション・意欲＞平均=3.93 (SD=1.06), $\alpha = .85$

…があることで毎回、授業後に感想を書くのが楽しみだった。
…が、出席する意欲を高めていた。
…によって、授業に対する不平・不満、授業運営についての疑問などが解消された。
…によって授業担当の先生とのコミュニケーションが取れていたと感じた。